

# マハー ヴァイローチャナ Mahā Vairocana

マハー・ヴァイローチャナ  
大日如来(摩訶毘盧遮那如来)

学報 2013 Aug  
Vol.68

Mahā Vairocana

大日如来(摩訶毘盧遮那如来)  
マハー・ヴァイローチャナ

高野山大学 学報 Vol.68

2013年8月15日(1月・8月年2回)発行  
発行人/和田 友伸 編集/総務課広報

発行所/高野山大学 〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385  
TEL. 0736-56-2921(代) FAX. 0736-56-2746

印刷所/コンタ印刷株式会社

特集 ROAD\_RUNNER#001-002  
道を歩む僧侶たち

KOYASAN UNIV.  
高野山大学  
<http://www.koyasan-u.ac.jp>

## Words of Wisdom by Kūkai File#01

### 後夜聞佛法僧鳥

閑林獨坐草堂曉 三寶之聲聞一鳥  
一鳥有聲人有心 聲心雲水俱了了  
(性靈集卷十)

### Hearing a *Buppōsō* Before Dawn

In a silent forest, meditating alone at dawn in a grass hut,  
I hear a single bird, singing out the name of the triple jewel.  
It is there in the bird's song, and it is there in the human mind.  
That sound, this mind, the clouds, the water: all these are perfect and complete!

#### 後夜に佛法僧の鳥を聞く

かんりん ひとごころ あ  
閑林に獨坐す草堂の曉  
一鳥声有り人心有り

さんぼう とえいつちよう き  
三宝の声一鳥に聞く  
声心雲水俱に了了  
(性靈集卷十)



お大師さまが初夏のある日の夜明け前、高野山にある草庵で瞑想を一人されている。すると、ブッポウソウ(コノハズク)という鳥が鳴く。その鳥の声が仏教の三宝の「仏法僧」に聞こえる。

お大師さまは、一羽の鳥の鳴き声にあるように、人の心にも三宝が本来ありと観じる。鳥の鳴き声も、人の心も、そして全部を取り巻く大自然のすべても、仏様の完全なる境地の現ればかりで、本質的に分け隔たるものはまったくない。

Kūkai is meditating alone in his rustic hut before daybreak one morning in early summer in Kōyasan. Suddenly he hears the song of a bird called the *buppōsō* (Japanese scops owl). The song of this bird sounds like the word *Buppōsō*, meaning the Triple Jewel of Buddhism: the Buddha, Dharma, and Saṅgha. Kūkai sees that as the Triple Jewel is to be found in a single bird's song, so too is it originally held in the mind of man. The bird's song, a man's mind, and everything in the surrounding environment itself are all manifestations of the perfect awakening of the Buddha, and are all fundamentally without any difference.



The song of the scops owl.



Associate Professor Thomas Eijō Dreitlein  
T ドライライン 准教授



2014 年度 入試日程

後期 一次書類審査出願期間  
2014年1月6日～1月24日  
一次選考 2月7日  
二次選考（面接）2月22日  
合格発表 2月26日

高野山開創 1200 年  
2015

AWAKE!  
FOR  
THE  
SUPER UNIVERSE



<http://www.koyasan-u.ac.jp>

高野山大学  
1926

癒しの時代から  
目覚めの時代へ  
ようこそ大宇宙へ

古義大学林  
1886

Contents

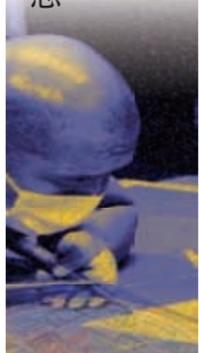
ROAD\_RUNNER File#001-002  
特集 道を歩む僧侶たち

長谷川 祐龍・神田 英明



チャト・リンポチエ金剛界法伝授  
チベット密教伝来の金剛界法の伝授

乾 仁志



日本中世の密教 「儀礼の力」

—密教談話会・ロンドン大学の  
ドルチエ先生との交流—

奥山 直司

奥山 直司



祝日展特選  
書を目指すもの

川崎 大開



新任のあいさつ

土居 夏樹・浜畑 圭吾  
トーマス・ドライトライン



大学通信

NEW TYPE Religious Awakenin File#001

—発心したニュータイプ 僧侶—

衣笠 文人



古義大学林設立(旧講堂)時代  
高野山大学史#01

木下 浩良



同窓会だより 第43号



オープンキャンパス

学園祭「曼荼羅祭」のご案内



東日本大震災復興支援活動から学ぶ

連続講座のご案内

寄付金のお願い

講師派遣制度をご利用ください



Words of Wisdom by Kūkai File#01

後夜聞佛法僧鳥

Associate Professor Thomas Eijō Dreitlein



# ROAD\_RUNNER File#002

# 白燈明

日本という枠組みからはずれてみる  
道を歩む僧侶

Hideaki Kanda



# ROAD\_RUNNER File#001

# 法燈明

「プロ?」の宗教教育  
道を歩む僧侶

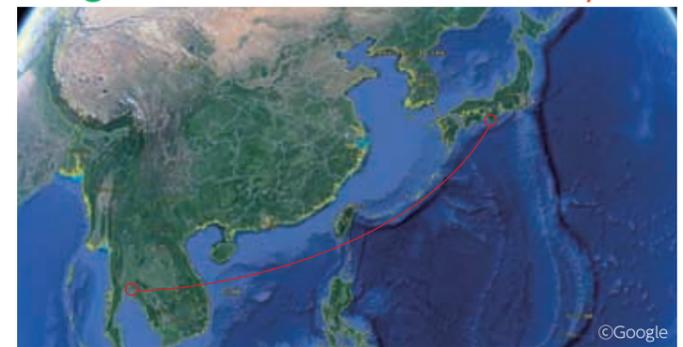
Yuryu Hasegawa



沈黙という 苦しみから もう一度はじめてみよう  
長い時間をかけてきて 自分がつみあげてきた プライドを  
一度すべて ぐずしてみる  
日本という枠組みから はずれてみる  
じぶんでもまだ知らない あたらしい 自分をみつけるために

人は 奇跡を起こすことができるのかもしれない  
僕は そのような思いを 心のどこかに ずっともっていたような 気がする  
だれも できないこと 思いもしないこと じぶんにしかできないこと  
この世にうまれてきたのだから そのようなことが きっとあるにちがいない  
そんな思いが ずっとあった  
でも 人のねがう 都合のいいおもいは そうかんたんにはかなわない  
日々のせいかつを まいにち大切に生きること  
ちょっとずつ ちょっとずつ  
それが いつか奇跡をよびよせるための ひみつの鍵なのかもしれない  
決して あたまで考えすぎてはいけない  
ほんとうに大切なことは  
きみたちのいる 部屋にある  
きみたちのあるく 道にある  
きみたちと話す 人にある  
まいにちする いのりにある  
ほとけのせかいとは そんな気がするんだ  
たくさんの国々に それはつたえられている  
日々をいきる エネルギーになっている  
まずは かんじること  
そこから はじめてみよう

Bangkok ←————→ Wakayama



**Buddha\_Record**  
●REC 2005年、二人は高野山大学の話をした記憶はないが、お互いの印象別々の道を歩む、二人の僧侶を記録してこの世界の中で、その道を歩む、二人の僧侶



**profile: 神田 英昭** (昭和51年生 東京都出身)  
高野山大学大学院博士課程修了  
現在、日本人納骨堂堂守(タイ、ワット・リアップ)、  
密教文化研究所受託研究員  
著書: 奥山直司・雲藤等・神田英昭編「高山寺蔵 南方熊楠書翰一士宜法龍宛 1893—1922」(藤原書店、2010年)



**profile: 長谷川 祐龍** (昭和47年生 三重県出身)  
高野山大学卒業  
高野山大学大学院修士課程修了  
現在 智辯学園和歌山中学・高等学校 宗教科講師  
吉祥山善福寺(松阪市)副住職

「そう…失敗しちゃったか…で、なんでだと思っ?」  
生徒の過ちや悩みに寄り添いながら八年の歳月が過ぎました。  
学校に僧侶がいる意味…。  
「思春期」を生きる若者に授業で仏道を伝え、次々悩み相談に来る生徒とともに迷い、「自力」で答えに気づかせる。  
親、担任には話せない…。僧侶を信頼してくれる仏教学校での授業とカウンセリングを通して彼らの四苦八苦と向き合う日々です。  
では一番の心の教師とは?  
それは生徒本人の「失敗」。  
特に、「人間関係」の失敗は大切で「相手の立場で考える」「客観的に自分を見る」そんな「理性」が育つための必要な経験であり、その生徒の「心の問題」が表われ、また私の言葉が一番届く瞬間でもある。まさに「失敗」こそは最高の「心の教師」なのです。  
などと、偉そうに書く愚僧の十代といえども、自分を過信し、成り上がると豪語し、思い通りにいかねば全て人様のせいにして、すねるわづらるわ田舎の不良。  
親、家族、御檀家・信者の皆様様に過大な迷惑かけまくり、それでも「かえるの面」に小使の愚かな青春。果てはすべてに嫌気がさし(周囲にも見かざられ)「死にたい」「消えた

い」の傲慢人間。  
そんな私を神仏は見捨てず、甘え三昧の二十三才時に脳腫瘍、そして余命宣告。望み通りの「死」の病。しかしこのショックが私に、真理と大切な価値の「気づき」を与えてくれた。  
限りある命(無常)、支えられての命(縁起)、感謝とお蔭様の心(慈悲)…  
これまでの傍若無人だった自分を恥じ、やっと人間になれた気がしたものの余命は三ヶ月。もし叶うなら親、仏道に恩返しをしたい…と神仏にすがり、祈り続けて今に…。腫瘍は完除され転移なく十七年目。本来なら「十七回忌」です。  
要するに私自身「勘違い」「コンプレックス」の固まりで、いわば「失敗のプロ」。私自身の迷走人生がこのような進学校で生かされるとは…。まさに「生かせいのち」。  
「他人が恐い」と一時的に不登校になった子が教室に戻れたり、「死にたい」と相談のたび泣いていた子が笑顔で卒業した時の喜びはたとえようもなく、これからも失敗を繰り返す生徒たちに「プロ」からの忠告を伝えたい。「この世に無駄なものはない。必要な命だからこそ、この世に生を受けたのだよ」と伝え続けたいと思っています。

# チベット密教伝来の 金剛界法の伝授

乾 仁志

去る五月七日と八日に、ダライ・ラマ法王直属の本山ナムギエル寺で僧院長も務められたチャト・リンポチエ師による金剛界法の伝授が行われました。今回の伝授会もダライ・ラマ法王日本代表部事務所(チベットハウス)のご協力によるものです。昨年に「高野山大学創立百二十五周年記念事業」として、ダライ・ラマ法王をお招きし、チベット密教の「金剛界マンダラ灌頂」を開壇していただきましたが、今回はそのときの受者を中心とする百七十七名がリンポチエの伝授を受けました。

伝授会では、前の灌頂を受けられた方々のために、密教の修行者としてスタートするのに必要な「六座グルヨーガ」と、金剛界の成就法である「金剛界法」を授けていただきました。「六座グルヨーガ」は灌頂の際に授けられた菩薩戒と三昧耶戒を日々心に念じて生活するための修行で、また「金剛界法」というのは修行者が自身を本尊として起ち上げる、いわゆる本尊瑜伽のことです。大乘仏教と密教の違いは実にこの本尊瑜伽の有無にあるといわれ



チャト・リンポチエ師は、顕密両教に精通した碩学で、とくに瑜伽タントラの事相に関しては、現代チベット仏教界随一の専門家として知られています。ダライ・ラマ法王による前の灌頂の際にも、砂マンダラの作成を指導され、また印契の阿闍梨として補佐されています。今回来日された機会にお伺いしたところでは、最近インドのダラムサラにあるギユトウ寺の副僧院長に就任されたとのことでした。ギユトウ寺(上密院)はギユメ寺(下密院)と並びゲルク派の二大密教学院として知られている学問寺です。この両寺の長はいずれゲルク派の総本山であるガンデン寺の座主(ガンデン・ティパ、ゲルク派の管長)となることがほぼ確約されていますので、リンポチエもそのような道に進まれたということになります。リンポチエのご健勝とご長寿をお祈りしたいと思います。

最後にになりましたが、ご多忙のところ、ご無理をお願いし、通訳を「担当」いただきました平岡宏二先生(学校法人清風学園 専務理事)とマリア・リンチエン師(ダライ・ラマ法王通訳)に対して、改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。



## 日本中世の密教 「儀礼の力」

—密教談話会:ロンドン大学のドルチェ先生との交流—  
奥山 直司

本年3月11日(土)午後3時より、高野山大学において「密教談話会 ルチア・ドルチェ先生を囲んで:日本中世の密教」が開かれた。ルチア・ドルチェ先生は、ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)の准教授で同学院日本宗教学研究センター長を務めている。先生は、イタリア出身で、日本中世の宗教儀礼を専門とし、密教への知識と関心がとても深い。この談話会には、本学より名誉教授の日野西真定先生(民俗学)と山陰加春夫先生(日本史)、教授の乾仁志先生(密教思想)と佐藤隆彦先生(事相)がコメンテーターとして出席し、それぞれの専門的立場から、ドルチェ先生と意見を交換した。議論はドルチェ先生の明朗闊達なお人柄もあってたいへん盛り上がった。これが次につながれば、と念じている。

ドルチェ先生を招いたのは、京都大学人文科学研究所の共同研究班「グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性」である。私は、3年前に人文研から共同研究プロジェクトの公募があった際に、これに応募して、幸いにも採用された。以来、班長として20数名の研究者仲間と共に研究会や公開講演会を開いてきた。この間に専門を異にする多くのすぐれた研究者たちと交流できたことは、私の大切な財産だと思っている。この研究班の活動は、今年の3月いっぱいまで満期終了したが、9月には成果発表を兼ねたシンポジウムを開く予定で、今その準備を進めている。

# 新任のあいさつ

## 土居 夏樹 (助教)



この度、高野山大学助教として着任いたしました、土居夏樹と申します。私は、弘法大師の思想研究および真言宗の伝統教学の研究を専門としております。

大師の教えは、二〇〇〇年という歴史の中で、多くの先徳・先人たちによって様々な解釈されてきました。それらの解釈の一つ一つには、大師の真意を少しでも理解したい、大師の伝えられた密教を体得したい、という想いが込められています。

ややもすれば、煩瑣な、しかも重箱の隅をつつくような議論と見られがちですが、それら伝統教学は、実は「大師の教え、密教の教えを理解したい」という想いの記録、つまりは、大師への信仰・密教への信仰の記録なのではないかと私は考えています。

大師の思想、そしてその後の真言密教の伝統教学に学生の皆さんと共に触れることで、二〇〇〇年間続いてきた大師への信仰・密教への信仰に関わって行きたいと考えております。よろしくお願いたします。

## 浜畑 圭吾 (助教)



本年度の四月に着任いたしました浜畑圭吾(はまはたけいご)と申します。この度は伝統ある高野山大学にご縁をいただき、光栄に思っております。

私は平家物語を中心とした中世文学を研究しており、主に平家物語の宗教的基盤と本文の生成について考えています。講義では、古典文学だけでなく近代文学も含めた文学全般を扱っています。文学は単なる趣味のように思われがちですが、作品には、どう生きたらよいのかということのサンプルが詰まっています。また、先人が遺した文物に触れることは、日本人としての感覚を養うことにもなるでしょう。こうした目に見えない力が、人生を豊かにすると考えています。

昨今の大学は少子化の影響もあって、学生数が減ってきています。これからの大学は、より一層の「魅力ある大学作り」が要求されてくるでしょう。そうした中で私は、魅力ある講義をすることから始めたいと思っています。四年間で終わる知識ではなく、長い人生の糧となるものを、学生と一緒に考えていきたいと思っております。

## トーマス・ドライトライン (准教授)



このたび、高野山大学の准教授として着任いたしましたドライトラインでございます。責任の重さを痛感しながら大学の発展と学生の教育に貢献できるよう、一杯務めたいと思っております。

学生数が減少する最中、これから大切になっていくのは「なかみ」だと思います。お大師さまの教学や仏教の思想を研究しながら、その質的な「なかみ」をどのように我々が置かれている世界に応用させていくかということだと思います。お大師さまの教学を学べばいいものだけに決して留まりません。学んでから、または学びながら、実践しなければなりません。特に僧侶の学生は拝みながら、菩薩行の実践者としての自覚を持ちながら、規模はいくら小さくても謙虚に世間に貢

献することを目標にしなければならないと思います。在家の学生も同様に、社会の一員として本学で学んだことを何らかの形で社会に還元できるよう、促しながら教鞭をとらせていただきたく存じます。また、お大師さまの密教をどのように英語で表現するかに重点を置いて英語の教育に携わっていきたくと思っております。

お大師さまの教えの内容とその現在における価値を学生とともに考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

# 大学通信

### 【集団得度式】

高野山学園集団得度式が平成二十五年五月二十八日(火)に総本山金剛峯寺に於いて行われた。午前十時より、臨席の本山重役、大学・高校役職、保護者等が見守る中、松長有慶管長親下により剃髪、法衣の授与、授戒がなされた。

### 【授戒】

平成二十五年五月三十日(木)から六月十日にかけて高野山大学大菩提院(加行道場)に於いて開壇された授戒は、高野山総持院宮田永明師を伝授阿闍梨に迎え、教職員が證明師として出仕、莊重に執り行われた。

### 【春季集団加行】

平成二十四年度の春季集団加行が高野山大学大菩提院(加行道場)において行われた。総持院宮田永明師に伝授阿闍梨をお勤め頂き、初心(理趣経)加行、護身法加行は、二月九日から二月十五日まで、前期(十八道加行)、金剛界正行(胎藏界加行)、護摩正行は、二月十六日から道場に入り、三月三十日までの間、僧房に住して瑜伽行に専念した。

- 【初心加行者】二名
- 【前期加行者】三名
- 【後期加行者】一名
- 【高野山大学授戒学金】採用者 二名
- 【高野山住職会奨学金】採用者 五名
- 【川原奨学金】採用者 第一種 一名
- 【佐伯奨学金】採用者 一名
- 【名越奨学金】採用者 一名
- 【松浦禪朝奨学金】採用者 二名
- 【松原奨学金】採用者 一名
- 【同窓会奨学金】採用者 一名(内、二名は新入生)
- 【申徳会奨学金】採用者 一名

### 【夏季集団加行】

平成二十五年年度の夏季集団加行を高野山大学大菩提院(加行道場)において行う。高野山総持院宮田永明師に伝授阿闍梨をお勤め頂き、初心(理趣経)加行、護身法加行は、八月二日から八月六日まで、前期十八道加行、金剛界正行(胎藏界加行)、護摩正行は、八月七日から八月十七日から道場に入り、九月十八日までの間、僧房に住して瑜伽行に専念する。(受者人数は九名)

### 【大日経】講伝伝授

平成二十五年六月十七日(月)と十八日(火)の二日間にかけて、高野山大学に於いて、高野山真言宗管長総本山金剛峯寺座主松長有慶管長親下を大阿闍梨にお迎えし、昨年度に引き続き第三会を行いました。宗団内外の僧侶約九十名が受講しました。

### 【高野山大学奨学金】

- 採用者 第一種 一名
- 採用者 五名
- 採用者 第二種 一名
- 採用者 一名
- 採用者 二名
- 採用者 一名(内、二名は新入生)
- 採用者 一名
- 採用者 一名
- 採用者 一名
- 採用者 一名



## 祝 第44回 日展特選

# 書を指すもの

川崎 大開

### 大学時代の思い出

私は昭和58年3月に高野山大学を卒業した。私が高野山大学に入学したのは書道科の教職免許を取得するため、そして本格的な書の勉強がしたいと考えたからである。当時の大学案内の教授陣の中に、故小坂奇石先生の名があり、高校時代から小坂先生の書に憧れを抱いていた私は、迷うことなく高野山大学への進学を考えた。ただ、大学に入学すると小坂先生はすでに退職されており、門下の故楠見悠山先生に教えを受けた。

高校時代から書道を始めた私は、卒業するときには高校の中で一番ウマイ、と自負できるまでになり、勢い勇んで大学に入学、書道部に入学した。しかし、ここで大きなシヨックを受けることになる。というのも、書道部の中で私が一番下手だったのだ。同級生には平樂大齋、北岡瑞樹らがいた。

現在は高校生・大学生を対象とした書道展といえば日本書芸院主催の全日本高校・大学生書道展があるが、当時は大東文化大学主催の高校展が最も名の通った展覧会だった。この書道展で平樂君は最高賞を受賞し入学してきた。いうまでもなく高校生全国の実力の持ち主である。また北岡君は高校3年生で毎日書道展に入賞していた。同級生を見てもこの二人を筆頭に層々たるメンバーが揃っていたし、4回生には山本大悦先輩がおられた。山本先輩は当時から飛び抜けた実力の持ち主で、第40回・42回日展で特選を受賞され、昨年から日展審査のアシスタントを勤められている。数年後には日展審査員とされるであろう方だ。

私は大いなる焦りを感じ、来る日も来る日も書に打ち込んだ。そして山本先輩の紹介で江口大偉先生の門下生とさせていただき現在に至っている。

世間知らずの、書道界の何も知らない私が30年たった現在でも書が続けられていられるのは、こうした環境の中で大学生活を送れたからであり、高野山大学出身者であることを誇りに思っている。

私の楠見先生との思い出の一つに、いくら努力しても全く書の実力が上がらず悩んでいた時、書をあきら

めた方がよいか、と相談に行った。先生は10年やってダメならあきらめなさい、とのお言葉をくださった。楠見先生には生意気でアクの強い私達に、優しく、気長にご指導をいただいた。今になって先生の偉大さを痛感すると共に、心から感謝申し上げたい。

### 現在の私

私は現在、高等学校の書道科教諭として勤務しながら、江口先生が会長を務める書道研究団体「璞社」の末席を汚している。余談になるが、本校には大学の後輩である栄枝秀洞(国文学、書道科教諭、第3年学部主任)、井川正明(国史卒、国語科教諭、進路指導部主任)と共に生徒と奮闘中であることを報告しておきたい。

さて、私は昨年の第44回日展で特選を拝受した。師の江口先生も驚いておられたが、私は現在でも信じられない思いである。

私は常々、書作品は人に訴える、生命力に溢れるものでありたいと願ってきた。そのため「氣」に満ちた格調高い作品を書きたいという気持ちで取り組んでいる。今回、特選を拝受した作品を改めて見直してみると、力みばかりが前面に出た、私の意に沿わない作品だと反省している。今後は、自分らしい、自分にしか書けない作品を発表できるように、より一層の精進を重ねたい。



第44回日展(2012) 特選 村上佛山詩

# 日録 (1月~7月)

- 1月 後期授業開始
- 7月 後期授業開始
- 10月 修士論文提出期限
- 18日 後期授業終了
- 21月 卒業論文提出期限
- 28日 後期試験開始(2/1)
- 2月 後期試験開始(2/1)
- 3月 大学院後期入試
- 2月 卒業論文口述試問(通信)
- 6月 修士論文口述試問(通字)
- 8月 一般前期入試
- 9月 一般前期入試
- 20月 高野山学園理事會・評議委員会
- 25月 卒業論文口述試問
- 26月 卒業論文口述試問
- 4月 入学式
- 5月 オリエンテーション
- 8月 前期授業開始
- 5月 開校記念日
- 15月 卒業論文題目届
- 修士論文題目届提出期限
- 21月 報恩日
- 27月 学園監事會
- 28月 高野山学園理事會・評議委員会
- 28日 得度式
- 30月 同窓會總會
- 授戒(6/1)
- 6月 高野山大学授戒
- 10月 日野西眞定先生 名誉教授 称号記贈呈式
- 12月 リクルート進路フェスタ (和歌山)
- 15月 宗祖降誕會(青葉祭)
- 17月 大日経講伝第三會
- 18日 大日経講伝第三會
- 19月 自死者慰霊法會
- 21月 報恩日
- 26月 第2回東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座
- 27月 高野山フジキン小川修平記念講座記念植樹式典(高野山)
- 7月 通信教育学習支援會(大阪) 卒論・修論提出期限
- 10月 前期授業終了
- 12月 密教研究會學術大會
- 13月 密教研究會學術大會
- 17月 第三回東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座
- 20日 公開講座(福岡)
- 21日 ライオン企画大学フェア (福岡)
- 24月 通信夏季研究発表會
- 25月 夏季通信スクーリング開始 (8/4)
- 27月 オープンキャンパス&公開講座 (大阪)
- 29月 夏季休業開始

# 今、お坊さんが来てる。

## 高野山へ

10歳にて  
得度



**衣笠 文人** (僧名:文清)  
1990年11月8日生れ AB型  
＜出身＞神戸市  
＜出身高校＞兵庫県立兵庫高校  
＜出身大学＞日本体育大学体育学部  
社会福祉専攻  
＜資格＞中高保健体育教員免許



**A2 Q2**

**高野山大学の印象は?**  
都会の大学とは全く違う環境で、小さな大学なので不安でしたが、入学すると、すぐに楽しい友人や、素敵な先輩、先生方と出会って驚きます。

高野山へ  
やってきました。



# I shall become an Athlete BOZU.

## お坊さんとしても全力疾走 World Record400m43秒18 (笑) いざスタートラインへ

中学～  
日体大まで  
陸上一筋



**A5 Q5**

**どんなクラブに所属していますか?**  
運動部ではバスケット・野球・サッカー。レベルも高く楽しいです。文化部では書道・茶道・宗教育。今後、僕のアスリート魂を生かして大学を活気づけていきたいです。

愉快的仲間が  
いっぱいいます。



**A7 Q7**

**高野山大学で  
学ぶ面白さとは?**  
一流の先生方から直接、親身にご指導頂けることです。また先輩方から、僧侶のやりがい、スタンスをどんどん学べることです。

この本  
やばいっす。  
高木神元  
『空海』



**A3 Q3**

**高野山に来て、感動したことよかったですか?**  
校舎内で、カッウの鳴き声が聞こえたことです。スピーカーから聞こえてくるかと思ったら本物でした。それとクリアーな星空に毎日感動しています。満天の星空見ながら三線鳴らします。人工衛星も見れますよ。



趣味はSANSIN  
OKINAWA  
-SONG  
三線三味。

すっきり!  
爽快!! 出家感  
けど...  
なごりおいしい。



MY HAIR  
OFF LINE  
By Beauty Salon MOYOYANI

**A4 Q4**

**高野山の学ぶ、魅力はどこですか?**  
世界遺産をバイクでツーリングなんかしてきます。国宝・文化財なんか日常風景です。夕方すぎ、町の静寂の中で散歩すると、とびっきりなフリーズと新しい日々、引き込まれていく……。

お坊さんとして、  
御大師さまを  
追い求め  
精進したいですね。



**A6 Q6**

**卒業後の目標は?**  
子供からお年寄りまで御大師さまの御教えを広めるため、素敵なお寺を創りたいです。スポーツを生かして地域交流を促進するため、アクティブ(即身かつ、人々の役に立つ密教)を推進していきたいです。



### 古義大学林設立（旧講堂）時代～

### 高野山大学史 #01

本学図書課長心得・研究所事務室長心得 木下 浩良



1886 古義大学林  
旧講堂



初代総理 獅岳快猛師

本学は、明治19年(1886)5月1日開校の真言宗古義大学林を創立の時と公称するが、その開校当時から存在したのが、掲載の旧講堂である。この建物は、高野山の金剛三昧院近くにあった上蔵院の庫裏を、同大学林の開校の地である現在の金剛峯寺奥殿付近に曳き、講堂としたものだった。

それまで、真言宗内には大学林と称する学校が各所にあった。古義大学林開校以前、高野山上には明治維新の直後にできたとされる講学所、明治5年(1872)開校の高野山小教院、同10年(1877)開校の高野山大学林と連続と続いた中での、同19年の古義大学林開校であった。処々の大学林は、新義大学林(東京音羽の護国寺に設置)と古義大学林の2つに統廃合されたのである。真言宗の僧侶となる者は、新古いずれかの大学林への入学を義務付けた。特筆すべきこととして、古義大学林は全国に先駆けた男女共学の学校であったが、何故に男女共学であったのか、その理由はこの僧籍に入るものの入学を、義務化したことが推察される。ちなみに、在家信者であっても古義大学林は入学を認めてもいた。

この新古両大学林の開校は、前年の明治18年(1885)の本末大会議における、新たな真言宗宗制の制定により、学制が改革されたことによる。さらに、その背景には、明治19年の明治政府による帝国大学令・中学校令・小学校令・師範学校令の公布があったことを、見逃すことはできない。この近代学校制度の確立の中で、古義大学林は開校を迎えたのである。両大学林の下には、全国各地の法務支所に附属する中小学校があり、その中小学校は、法務支所の学頭(現在の支所長に相当)が主管したのであった。



1965松下講堂

古義大学林の主宰は金剛峯寺座主が兼務し、これを総理と称した。初代総理は、高野山西禅院の獅岳快猛師であった。同師は長州出身で、同郷の明治の元勲である伊藤博文の師であったとされている。

なお、旧講堂はその後、大学が現在地に移転されると、昭和7年(1932)に再び曳かれ、今の密教文化研究所付近へと移設された。当時は仮講堂と言われて、近々に鉄筋コンクリート3階建ての大講堂の建設が意図されていたが、実現されることはなかった。戦後は、映画の上映や講演会場として活用されて、昭和29年(1954)には厚生館と改称して、高野町民にも開放され親しまれたが、同34年(1959)不審火により焼失してしまった。

黎明館の前身の松下講堂が完成するのが昭和40年(1965)である。その間、本学には講堂が無く、図書館の閲覧室において、卒業式や入学式等の行事がなされた。



## 同窓会を母校で開催

去る5月29日(水)、30日(木)の両日、役員会および平成25年度総会が母校において開催されました。

役員会・総会共に、出席された皆様の母校への熱い想いと危機感が相俟って、近年にない活発な意見交換の場となりました。

総会に引き続き開催された懇親会は、予想を超え多くの現役学生の参加を得て、大盛況となりました。今回の懇親会の成功は、改めて現役学生と先輩会員との交流の必要性を感じさせるものでした。談笑・歓談の中には流れ、校歌・学生歌などを参加者全員で斉唱・高吟し、お互いの健康と再会を約しつつ盛會裏に散会しました。

西日の参加者は、次のとおりです。

- 【高野山大学】藤田光寛学長、乾仁志副学長、中村本然研究所長、山脇雅夫教授
- 【法人本部】和田友伸事務局長
- 【役員】内海照隆、川口道雄、富家海信、安藤尊仁、杉井永明、曾根義泉、永崎亮寛、仲下瑞法、長原敬峰、藤本弘文、松尾止善、今川泰伸、近藤大玄、湯口有彦、塩谷光隆、金山真澄、廣安俊道、大平正大、武内正和、江頭弘勝、福森暢瑞
- 【会員】市川善博、金森良温、北岡瑞人、福本幸子、金津大郎、中合満博
- 【報道】高野山出版社
- 【事務局】谷田、福西、鉄、菊地、野口、宮崎

役員会・総会の議事の概要は、下記のとおりです。

### 役員会議事録(抄)

議事に先立ち御法案を捧げ、内海照隆学長、藤田光寛学長、和田友伸事務局長挨拶の後、会則第10条の規定により、会長が議長となり議事に入る。

- 第一号議案 平成24年度決算について(別掲)
- 今川泰伸監事より「適切に処理されている」旨の監査報告を受けて審議の結果、承認された。
- 第二号議案 平成25年度予算について(別掲)
- 審議の結果、原案どおり承認された。
- 第三号議案 同窓会顧問の推薦について
- 眞田有範前会長を、同窓会顧問に推薦し総会に諮ることが、全会一致で承認された。
- 第四号議案 平成25年度支部活動費の助成について

### 総会議事録(抄)

議事に先立ち御法案を捧げ、内海照隆学長、藤田光寛学長、和田友伸事務局長挨拶の後、会則第11条第3項の規定により出席者互選の結果、江頭弘勝氏を議長に選任し、議事に入る。

- 第一号議案 平成24年度決算について(別掲)
- 監事を代表して近藤大玄監事より「適切に処理されている」旨の監査報告あり。事務局より、決算の詳細について説明。慎重審議の結果、全会一致で承認された。
- 第二号議案 平成25年度予算について(別掲)
- 事務局より予算案の詳細について説明。質疑応答の結果、全会一致で承認された。
- 第三号議案 同窓会顧問の推薦について
- 眞田有範前会長が、全会一致で同窓会顧問に推挙された。
- 第四号議案 平成25年度支部活動費の助成について
- 前年度同様、支部活動助成金として総会開催支部に助成することが、全会一致で承認された。
- その他
- 同窓会事務局より、高野山学園役員および評議員の推薦について提案があり、推薦の可否について審議の結果、川口道雄副会長を評議員に推薦することが、全会一致で承認された。
- 「高野山開創1200年記念大法会への同窓会としての参加については、宗団および大学と連携しながら、同窓生の参加し易い内容と日程で、具体化に向けて検討する」と確認された。



役員会



懇親会

○来年度の役員会および総会は、同日開催とすることが確認された。

- 役員人事
- ①顧問 就任 眞田 有範 (平成25年5月30日付)
- ②監事 就任 今川 泰伸 (平成24年6月1日付)
- ③九州支部 鎮西会 会長 就任 江頭 弘勝 (平成24年10月4日付)
- ④徳島県支部 支部長 就任 山田 戒乘 (平成25年1月1日付)
- ⑤備中支部 支部長 就任 橋本 明禪 (平成25年4月1日付)
- ⑥備前支部 支部長 就任 金山 真澄 (平成25年5月26日付)
- 退任 坪井 全広
- 退任 福田寺 全宣

三九会

高野山大学三九会(山田戒  
乗会長)は、平成24年11月26日  
(27日の両日)に亘り、長崎市内  
の老舗旅館坂本屋に参集しま  
した。

午後4時から物故者追悼法  
要を行い、夜は長崎卓袱料理に  
舌鼓ながら宴は盛り上がりま  
した。その後は稲佐山から世界  
三大夜景を見物しました。

翌日は絶好の天気恵まれ、  
原爆資料館平和公園・孔子廟・  
大浦天主堂を観光し、最後に  
長崎市街・港が一望できるグラ  
バー園に登り、改めて感動しま  
した。

昼には四海樓にて食事をし、  
来年の再会を約束し、散会とな  
りました。

【参加者】(順不同敬称略)  
江口雅夫夫妻、師井正治、武田  
義昭夫妻、田村清光夫妻、寺島  
慎佳夫妻、所隆雄、堀井隆川



三九会

夫妻、松本文秀、丸井弘巨、山  
田戒乗、和田捷海夫妻、井上雅  
雄、井口義弘夫妻  
(幹事 井口義弘 記)

北海道支部総会

平成24年12月5日(水)午後  
5時より、札幌ジャズマックア  
ラザホテルにおいて、第19回高  
野山大学同窓会北海道支部総  
会を開催しました。

開会の辞、御法楽、支部長挨拶、  
事務局及び監査報告の後、  
全議案承認されました。

続いて高野山大学の和田友  
伸法人本部事務局長より、学園  
現況報告及び今後の大学の方  
向性について説明がありまし  
た。

引き続き懇親会を行い散会  
しました。  
(同窓会事務局 記)

徳島県支部総会

高野山大学同窓会徳島県支  
部では、平成25年1月22日(火)  
午後4時より、徳島ワシントン  
プラザホテルに於いて総会を  
開催いたしました。

御法楽の後、新入会員の紹介  
をし、山田戒乗支部長(徳島市)  
如意輪寺が挨拶。そして、高  
野山大学同窓会の内海照隆会  
長、法人本部の和田友伸事務局  
長から大学の現在の状況・報告  
を含んだ祝辞をいただきました。  
協議では、平成24年度の会



徳島県支部総会

務・会計報告、役員改選を滞り  
なく終え、総会を閉会いたしま  
した。  
引き続き、高野山大学学長の  
藤田光寛先生を講師に招き、  
「密教の種々相―日本とチ  
ベット―」と題し講演をいただ  
きました。  
その後、懇親会を行い盛会の  
うちに今年度の同窓会を終え  
ました。  
(常任幹事 上田善大 記)

岡山県三支部  
合同同窓会

平成25年1月16日(水)午後  
5時から岡山市岡山全日空ホ  
テルに於いて、岡山県三支部合  
合同同窓会が備中支部当番で開  
催されました。

橋本明祥備中支部会長によ  
る開会挨拶に続き、福西勝久同  
窓会事務局長より挨拶並びに高  
野山大学の現状報告概要説明  
がありました。

淡路出身  
南山学徒奨励会

高野山真言宗淡路宗務支所  
主催の支所下寺院子弟在学学  
生奨励会が、平成25年5月  
28日(火)高野山西南院(和田友  
伸住職)において開催され、大  
学生3名、本山研修生1名を含  
む18名の出席がありました。

竹原祐乘支所長、乾副学長  
挨拶の後、参加者の自己紹介が  
あり、支所より学生達に奨学金  
が授与されました。  
その後、参加者は料理に下鼓  
を打ちながら、郷土の話や学生  
時代の思い出話に花をさかせ、  
学生個人の健闘と学園の発展  
を祈念し盛会のうちに終えま  
した。

尚、本学からは乾副学長、森  
崎助教、後藤学生サポーター課  
長、学生サポーター課北が出席し  
ました。  
(高野山大学 北法弘 記)



みろく会



淡路出身南山学徒奨励会

みろく会

昭和36年卒業・第8回「みろ  
く会」を平成25年5月22日(水)  
(23日(木)、横浜ロイヤルパ  
ークホテルにて開催し、12名が参  
加しました。  
夕食は横浜中華街「華正樓」



昭和46年入学同期同窓会

昨今この辺りで二度同窓会  
を開催してほしいとの同窓生  
の声を耳にし、この度有志相計  
り「昭和46年高野山大学入学  
同期同窓会」を平成25年2月6日  
(水)〜7日(木)に、有馬グラ  
ンドホテルにて開催し、旧交を  
温めました。  
(同窓会事務局 記)

【各運連絡・お問い合わせ先】  
伊都郡高野町高野山3805  
高野山大学同窓会事務局  
電話073615612921  
(内線112)  
FAX073615612746  
Email dosokai@kyasan-u.ac.jp  
※必ず氏名郵便番号・住所電話番号等  
をお知らせください。

高野山大学同窓会役員

平成25年6月1日現在

名誉会長	名越 観全
顧問	松長 有慶
副会長	真田 有範
会長	内海 照隆
理事	鐘ヶ江 尊明
	川口 道雄
	富家 海信
	安藤 尊仁
	伊勢木 俊貞
	杉井 永明
	曾根 義永
	橋本 隆寛
	永崎 亮寛
	仲下 瑞法
	長原 敬峰
	濱田 圓梁
	藤本 弘文
	松尾 正善
	山田 戒乗
	今川 泰伸
	近藤 大玄
	八木 恵生
	松尾 正樹
	間野 英樹
	安藤 尊仁
	大川 吉崇
	二上 寛弘
	湯口 有彦
	塩谷 光隆
	和田 捷海
	福田 全巨
	金山 真澄
	廣安 俊道
	大平 正大
	武内 弘正
	江頭 道勝
	川口 敏勝
	福田 道雄
	宮城 敏徹

同窓会事務局からのお知らせとお願い

個人情報の取り扱い

同窓会では、大学から提供を受けた  
会員の個人情報、次の場合を除き第三  
者に提供いたしません。②、③につい  
ては、依頼人より個人情報利用誓約書  
を提出して頂きます。

- ①会員を対象とした印刷物を発送す  
る場合
- ②各支部組織の事務局からの依頼が  
あった場合
- ③入学・卒業等の年次別の同窓会を開  
催する場合
- ④同窓会役員会が提供を認めた場合

新しい支部の設立

支部組織は、都道府県単位を基本と  
しておりますが、都道府県単位よりも大  
きなブロック組織や小さな地区組織ま  
たは、入学・卒業等の年次別でも設立が  
可能です。役員会の承認により、正式な  
団体として認められると、支部設立準備  
助成金が助成されます。

同窓生親睦会への補助

事前に事務局までご連絡頂ければ、  
祝電・祝儀等お手配させていただきます。

会員のお祝い事など

同窓会員の慶弔事につきましては電  
報等お手配させていただきます。ご家族の方  
からのご連絡でも結構です。お気軽に  
致します。

会報のお届け

会報は、全同窓生の皆様に発送いた  
しておりますが、ご家族で一通のお届け  
をご希望の方は事務局までお申し出く  
ださい。

住所や氏名を変更された方もお知  
らせください。

同窓会事務局では会員皆様の色々な  
情報やご投稿をお待ちしております。各

寄附御礼

内海照隆様(5万円)  
長原敬峰様(1万円)  
長原敬真様(1万円)  
故岡田明子様(1万円)  
匿名(1万円)  
厚く御礼申し上げます。

同窓会費納入のお願い

同窓会年会費3千円、終身会費9万円  
(累計額を含みます)は、同封の振込用  
紙にてお送りくださいますようお願い  
申し上げます。

複数年度分を一括して納入される場  
合は、その旨をお書き添えください。尚、  
現在の個人納入状況等ご不明な方は同  
窓会事務局までお問い合わせください。  
発送処理上、既に今年度の会費や終  
身会費を納入頂いております方にも振  
替用紙を同封いたしております。何卒ご  
了承賜りますようお願い申し上げます。

【平成18年度以降の新入生(通信生を除  
く)の方々は、入学時に終身会費6万  
円を納付頂いております。それ以前に入  
学された在学生や全通信生の方々は  
授業料納付時に年会費を頂いております。  
】



## 高野山大学密教文化研究所主催 東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座

2年前に発生した大震災は未曾有の被害をもたらし、今も多くの  
方々が困難のなかにおられます。あらためて被災されたみなさまには  
お見舞いを申し上げます。弘法大師の教えを現代社会にいかすこ  
とを研究の柱とする密教文化研究所では、あの日突然起こった悲  
劇にどう向かい合うか、また今もその苦しみを抱える方々とどう接し  
ていくべきかについて、他分野からも学びつつ共に考えるという趣旨  
のもと連続講演会を企画しました。多くの皆様のご参加を歓迎いたし  
ますので、是非お越しください。

- 日時:午後1時30分~4時
- 会場:高野山大学本館2階第3会議室
- 入場:無料
- 主催:高野山大学密教文化研究所
- 協力:高野山大学人権研究会
- 後援:高野山真言宗  
東日本大震災災害対策本部

### 第4回 9月25日(水)

「被災地におけるスピリチュアルケアの実際」  
講師:堤澄子(パストラルケアセンターHUGハウス)

### 第6回 10月30日(水)

「被災地におけるDMORT活動の可能性について」  
講師:山崎達枝(DMORT研究会幹事)

### 第5回 10月23日(水)

「『遺体』から見てきた宗教の原点について」  
講師:石井光太(ノンフィクション作家)

### 第7回 11月27日(水)

「死者を鎮め、生者を安心させる生活仏教」  
講師:佐々木宏幹(駒澤大学名誉教授)

事務局:高野山大学密教文化研究所事務局  
〒648-0280 伊都郡高野町高野山385  
電話番号:0736-56-2390 FAX:0736-56-2980

## 寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金  
を募集しております。

これは、昨年度から取り組んでいる、高野山霊宝館と  
の連携や学習・就職支援室の運営などをはじめ、大学で  
の教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金  
の募集でございます。

- 頂戴いたしました寄付金は、
- 大学の設備・備品費などの諸経費
- 霊宝館との連携事業の経費
- 学習・就職支援室の活動費
- などに用いさせていただく予定であります。

高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、  
“魅力ある学校づくり”をキーワードに、これからは様々  
な教育改革に取り組んでまいります。皆様におかれまし  
ても、高野山大学への引き続きのご支援を心よりお願い  
申し上げます。

この趣旨に賛同いただける方は、お手数をお掛けい  
たしますが、高野山大学総務課(電話0736-56-2922、  
FAX0736-56-2746)までご連絡ください。ご連絡を  
いただきました方には、大学から、

- 寄付申込書
  - 寄付金用振替用紙
  - 返信用封筒
- をお送りさせていただきます。なお、寄付金は、一口  
二千元以上(税金控除証明書発行可能)とさせていただ  
いております。

皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】今回の学報に同封しております振替用紙は、  
同窓会費の振替にのみご利用ください。

## 講師派遣制度をご利用ください

各機関(本山・宗団・同窓会・宗務支所・野山真言宗寺院  
など)さまへの本学教員の講師派遣は、大学公務として  
取り扱っております。

### 【講師派遣お申込み手順】

- 1.ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマを、本学総務  
課へご連絡ください。  
・お電話 0736-56-2921  
・FAX 0736-56-2746  
・E-mail shomu@koyasan-u.ac.jp
- 2.講師との調整がとれ次第、依頼主さまへ折り返しご連  
絡いたします。
- 3.「講師派遣依頼書」を提出してください。

### 【注意事項】

- 1.講演料(手取り額)  
60分 ¥20,000  
90分 ¥30,000  
※講演料だけ講師に直接手渡してください。
- 2.交通費・宿泊費は、本学にて負担します。〔高野山大  
学旅費規程〕による)
- 3.講演が複数日あるいは長時間にわたる場合の条件  
は、講師と直接調整してください。
- 4.大学を経由せずに、直接講師へ依頼する場合は、この  
申し合わせの対象外とします。  
※講師派遣依頼の申込は、こちらの様式をお使いくださ  
い。  
HP <http://www.koyasan-u.ac.jp>

# OPEN.CAMPUS Koyasan Univ.

Nov.2nd 《Sat》

《受付》

★11:30~<学食ランチ無料>

《個別説明会内容》

★13:00~15:00

- キャンパス見学
- オリエンテーション
- 学部・学科説明
- 入試説明
- 学生生活・奨学金・就職
- 個別相談  
【大学院、通信制大学院含む】

2013.11.2

土

受付11:30~

《体験Ⅰ・Ⅱ》

★15:00~

- 体験授業/霊宝館ツアー
- 女子寮見学

同時開催! OPEN12:00~  
学園祭「曼荼羅祭」

《自由参加》

出店のフリーチケット配布

MANDALA  
FES'13

曼荼羅祭

お問い合わせ先/高野山大学企画広報係 TEL:0736-56-2921 E-mail:seminar@koyasan-u.ac.jp

### 説明会(個別相談)



●入学・進学(個別)説明会13:00~15:00

### 体験Ⅰ



●霊宝館ツアー15:00~16:00

### 体験Ⅱ



●女子寮見学16:00~16:30